

教団新報

定 価 1部 144円(本体133円+共206円)
予約購読料 1年分 千共 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 道家紀一
編集主筆 渡邊義彦
印刷所 株式会社きかんし



静岡教会 クリスマス音楽礼拝

それゆえ、主は恵みを与えようとしてあなたたちを待ち、それゆえ、主は憐れみを与えようとして立ち上がられる。まことに、主は正義の神。なんと幸いなことか、すべて主を待ち望む人は。まことに、シオンの民、エルサレムに住む者よ、もはや泣くことはない。主はあなたの呼ぶ声に答えて必ず恵みを与えられる。主がそれを聞いて、直ちに答えてくださる。わが主はあなたたちに災いのパンと苦しみの水を与えられた。あなたを導かれる方はもはや隠れておられることなく、あなたの目は常にあなたを導かれる方を見る。あなたの耳は、背後から語られる言葉を聞く。「これが行くべき道だ、ここを歩け、右に行け、左に行け」と。

《イザヤ書30章18～21節》

「お前たちは、立ち帰って静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある。これは信仰を求める言葉です。困難の中でうろたえ、人間的な知恵と力でその場を乗り切ろうとするイスラエルに対して、「イスラエルの聖なる方、わが主なる神」が語られるのです。

メッセージ

主に信頼する歩み

イザヤ書30章15～26節



佐々木美知夫

人間の知恵と力で乗り切るのではなく

イザヤ書30章はその始めに、エジプトとの同盟についての批判とイスラエルの背信を記します。また章の終わりでは、アッシリアに対する審判を語ります。そして中心部分で、イスラエルが置かれた困難の中に、神が共に居ますことを告げ、イスラエルが神への信頼に生きることを求めます。

主は待ちわびておられる

イザヤ書30章の御言葉は、不思議な順序で並んでいます。先ほども申しましたが、30章は、神に信頼せず、エジプトとの同盟に走るイスラエルを批判した1～7節の言葉で始まります。そして8～17節では、民の背きと罪過による崩壊が語られます。8～11節では、民の背信を記して永遠の証しとすべきことが預言者に語られます。民は自分たちに都合の良い神を求め、預言者に真の預言ではなく、自分たちに心地良い預言を語るようにと求めるのです。それ故に12～17節では、神が怒りをもって崩壊を来らせ、壺を砕くように民を粉砕されると告げるのです。神に立ち帰って静かに信頼する信仰は薄れ、人間の対応に走るイスラエルの民は崩壊すると言われます。最初に申し上げた15節の言葉は素晴らしい言葉ですが、この文脈で語られているのです。ですからせっかく神が御自身をイスラエルに示して信仰を求められたのに、彼らはそれに聞かなかったと言われます。普通に考えれば、これで神の言葉に聞かないイスラエルの民は崩壊し、裁かれて終わることになるでしょう。

ところが、18～26節では一転して、神の恵みが告げられます。「それゆえ、主は恵みを与えようとしてあなたたちを待ち、それゆえ、主は憐れみを与えようとして立ち上がる。まことに、主は正義の神。なんと幸いなことか、すべて主を待ち望む人は」にある待ち望む」と同じ言葉です。それ故に「待ちわび」として

この方に信頼して

私たちの主は、教会と私たちのために自らの力をもって立ち上がられる方です。今日、教団全体の伝道力低下や将来への困難が示されますが、私たちの為すことは先ず、この方を信頼し、心を尽くして礼拝し、神の救いを確信して、福音を語ることです。主は私たちを孤独にせず、私たちが「導かれる方」として御自身を現し、

教会の歩みやその肢なる者たちの信仰生活も、基本的に神を礼拝することから始まります。信仰生活は神の賜物であり、自分からその必要や必要を判断するものではありません。信仰が神の業として徹底されることによって信仰は成長し、力を持つのです。日々の歩みとそこで出会う事柄に、神への信頼を携えて向き合うのが礼拝者の姿であり、教会の姿です。

そこに神の言葉を聴き、私たちが生かす神の力を得て歩むことが、本来自然な在り方なのです。それは祈りとなり、賛美となり、平安と感謝の告白にもなります。神を拝む生活、それは、重荷を担う孤独から解放され、将来を担う力を与えられるのです。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしの学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は軽いやうく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ11:28～30)という主イエスの言葉は、私たちへの招きであり、しかも私たちに安らぎと将来を与える御心を表しています。信仰生活は神を礼拝することによって将来を見つめるものです。

訳されてもいます。「主はあなたたちに恵みを与えようとして待ちわび、憐れみを与えようとして立ち上がられる。何と深い神の愛と御心でしょう。甲斐なき者と思えるイスラエルを御自分の民として位置づけ、見捨てず、愛し導いて行かれる主が共に居られる。この福音を神は御自分の独り子に託されました。そして独り子の御体として建つ教会に託されたのです。神は罪を水に流し、裁かれない方ではありません。罪を裁き、義を立てられる方です。25節には、裁きの時が来ると言われます。しかし、その日に水の流れるように神の恵みと命が豊かに示されるのです。神とその民とされる者たちの豊かな交わり、それが預言としてここに語られています。それ故に、神はイスラエルを導かれた以上に私たちを主に贖われた民として強く導き、神の国へと招かれるのです。教会の歩みも肢なる者たちの信仰生活もこの道筋にあります。15節の言葉は、18～26節の言葉を通してもう一度私たちに語り掛けられるものです。

つて下さるのです。私たちは真の力を持つ方を礼拝し、豊かに支えられて、主の再臨の日に向かっています。教会の伝道の力はここにありま

者が、礼拝を守り、御言葉と聖餐の恵みにあずかって、喜びの中で福音を語り、証することに他なりません。主に生かされる教会そのものなのです。
(第40教団総会副議長
静岡教会牧師)

「熊本・大分地震」「鳥取中部地震」 現地報告

《熊本・大分地震》 教会支援・地域支援を柱として

「熊本・大分地震」から10箇月が経った。この間、皆様が寄せて下さった篤い祈りと貴い献げ物に心より感謝する。事態は尚、深刻だが、私共九州教区はこの苦難の中に、主の御手をはっきりと感じている。感謝に堪えない。

九州教区の課題

課題は、①被災教会・信徒・教職の救援、②地域の被災者支援、の2つである。②から記す。

地域の被災者支援

九州教区と在日大韓基督教会総会が共同で「ボランティアセンター・エルピスくまもと」を設立し、この働きに当たっている。発足時期が避難所到大勢の被災者が身を寄せつつある時だったので、熊本YMCAが管理する御船町避難所でのカフェ

開設「ドリームカフェ」による娯楽提供・傾聴活動に取り組んだ。教区内教職による子ども・大人をそれぞれ対象とした工作教室も非常に好評で、活動は10月末の避難所閉鎖まで忠実に続けられた。

元来、やがて造られる仮設住宅での孤立化を防ぐための人間関係づくりを今から」との思いを籠めた避難所での活動だったが、実際に信頼に基づく親密な関係を築くことが出来たのは嬉しいことだった。

仮設での奉仕は12月14日に南木倉仮設団地（55戸）から開始したが、避難所で結んだ信頼関係が大きな助けとなっている。23日には同地でクリスマス会を開いた。住民



上、熊本の現況（2月）、住民流出・売家や更地増加
下、仮設でのカフェの語り

《鳥取中部地震》 被災教会合同礼拝を開始

2016年10月21日14時7分、鳥取県中部を震源とする地震が発生し、倉吉市内で震度6弱を観測した。発生当初より、

多くの心配の問い合わせ、見舞いなどをもらい、いまだに多くの方々がこの震災を覚えて祈っていることを心より感謝する。

倉吉教会は、建物の壁面に亀裂などが見られるが、大きな被害には至らなかったようだ。

上井教会は、外壁コンクリート部分の剥落、亀裂、内壁の剥落、亀裂などが多数あり、修理を要するものと考えられる。教会建物に関して言えば、倉吉復活教会の被害が一番深刻だった。外壁、掲示板の剥落、2階の窓のサッシの落下、玄関扉の倒壊、壁のはがれや、



床面のズレ、建物全体のゆがみによるものであろう。屏のきしみなど多くの被害があった。現在はベニヤ板、ブルーシートなどでの応急処置を終えているが、このまま修理して使い続けるということはかなり難しいだろうと考えている。3教会の役員が集まって今後のことについて話し合う機会も持った。

もちろん建物だけではなく、連なる教会員の中にも大きな被害を受けた方が多くいる。それぞれにどうにか日常を取り戻しつつあった矢先、今年に入って2度の大雪は、かねてより屋根の傷みを指摘されていた倉吉復活



上、倉吉復活教会墓地で石灯籠が倒壊
下、地震直後の倉吉復活教会

《熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援委員会》

再建支援「中越・能登方式」を確認

2月7日、40総会期第1回熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援委員会が、教団小会議室で開催された。組織として委員長に高橋潤、書記に田中かおるを選出した。その他の委員は、横山良樹、望月克仁、稲松義人である。陪席者は、九州教区議長・梅崎浩二、担当幹事は道家紀一である。

昨年4月14日の地震発生以後の当委員会の設立及び活動の経過報告を聞いた後、当委員会の役割を確認した。この度の再建支援の基本姿勢は、「東日本方式」（半額を支援し、残りを貸し付けとする方法）ではなく、それぞれの教会及び教区の自助努力の姿勢を尊重しつつ当該教区が最大限の支

援を行う「中越・能登方式」であること、そのためには被災各個教会の再建計画の必要書類を九州教区が確認し、当委員会が承認した上で支援を行うことを確認した。

会計面では、1億8000万円の募金目標額に對して2月現在の募金額が約4900万円であるとの報告を受けた。これは達成率としてはやや遅めであることを鑑み、3月初めの発行を決めたニュースレターでの呼びかけの他に教団ホームページに支援に関する最新情報を載せるなどの必要性が話し合われた。

更に、梅崎九州教区議長から、以下のような現況報告を受けた。そもそもこの度の地震の特徴

は、「断続的・かつ広範囲に及ぶ揺れ」であり、それ故に被害状況把握にも時間を要し、被害状況を「確定する」作業が極めて困難であった。更には、熊本については、再建の見積もりを請け負える業者が見つからず本年5月以降でないと見積もりが取れない状況にある。そういう状況の中で、まずは再建費用が少額の教会から支援に取りかかるといふ方針を進めている。



左から、田中書記、横山、高橋委員長、望月、稲松、梅崎（陪席）

び生活支援活動が続けてゆく予定である。

被災教会への支援
今次震災では15の教会がその建物に被害を受けた、信徒・教職もまた、その生活に大きな打撃を受けた。教区では、早期に信徒宅の被害1件当り

20万円を支出し、当初より献身的に働いて来られた牧師方には保養プログラムを提供する等の対応を進めている。

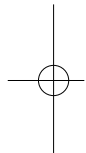
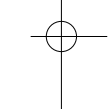
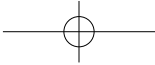
教会建物については「被災度区分判定」を一粒杜ヴォーリス建築事務所に依頼、その結果を基

に補修・再建費用を1億8000万円と試算した。被災地では現在も尚、施工業者を掴まえることが難しい状況だが、壁の亀裂も建物のひずみも震災以降の梅雨の大雨や台風の影響を受けて、その

傷の度合いを増している。一日も早い手当てを願うや切なるものがある。このために教団が「熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金（目標額1億8000万円）を呼び掛けている。九州教

区も当然、この達成のために総力を挙げて努めているところである。諸教会の苦闘を思えば恐縮ながら、敢えて更なる御協力を乞い仰ぐ次第である。

（九州教区議長 梅崎浩二報）



▼救援対策本部会議▲

本部主催 6 周年記念礼拝を開催

1月25日、40総会期教団救援対策本部第2回（通算第52回）会議を、教団会議室にて開催し



後列左から、飯島幹事、岸憲秀、石田幹事、真壁、八嶋由里子、邑原宗男、道家総務幹事、小西望、マッキントッシュ職員
前列左から、秋山徹、雲然書記、石橋本部長、佐々木副本部長、藤掛順一、佐久間、保科

た。今回は、40総会期第1回常議員会において選出された委員を確認した後、石橋秀雄教団議長を本部長、佐々木美知夫教団副議長を副本部長、雲然俊美教団書記を書記に選任。また、佐久間文雄委員を財務担当、真壁蔵委員を広報担当とした。さらに、佐々木、真壁、佐久間、保科隆の各委員を救援対策室委員として選任した。

その後、報告事項として、2016年12月31日現在で、国内募金が10億2805万4925円、海外からの献金が4億811万2041円と報告された。次に救援対策室

および担当幹事より、被災教会貸付金返済状況（貸付先は15教会と2幼稚園・1施設で、貸付残高合計は2億5428万

1031円）、釜石仮設クルスマス会開催、被災教会貸付金返済支援コンサート開催等の報告のほか、教団救援対策本部会計報告がなされた。

被災教会報告として、奥羽教区からは被災教会借入金返済状況、教区内被災教会支援会計等が報告された。東北教区からは救援対策を続けるための第2次募金趣意書発送、被災教会借入金返済状況、ボランティアカー受け入れ終了予定、「いずみ」甲狀腺検査実施、教区教会救援特別会計等が報告された。関東教区からは東日本大震災

記念礼拝開催予定等の報告がなされた。その他、国際青年会議所開催準備、救援対策事業全記録刊行委員会、被災3教区幼児教育担当者会の報告がなされた。

審議事項では、補正予算に基づく支援執行の確認、本部活動終了に向け

の取り組み、釜石市社会福祉協議会主催フォーラムへの協賛、東日本大震災6周年記念礼拝開催計画等を承認したほか、被災3教区の幼稚園・保育園の建物復興支援について協議し、継続審議とした。

（雲然俊美報）

▼伝道対策検討委員会▲

伝道力の命と力を回復し、高める体制を整えるため

1月30日、教団会議室にて、第1回教団伝道対策検討委員会が開催された。本委員会は、40総会期第1回常議員会において、石橋秀雄議長

の提案により設置された特設委員会である。委員は、常議員から、石橋、佐々木美知夫、雲

然俊美、東野尚志、望月克仁、佐久間文雄、遠藤道雄、中島曉彦の8名、教区議長から、北海（久世そらち）、東北（小西望、関東（秋山徹、東京（岸俊彦、中部（横山良樹）、大阪（小笠原純、四国（黒田若雄）、九州（梅崎浩二）の8教区議

長で、計16名である。また、予算決算委員長、総務幹事、財務幹事、宣教担当幹事、世界宣教担当幹事は常時陪席となっている。

最初に組織がなされ、委員長に石橋教団総会議長、書記に雲然教団総会議長を選任した。

次に、本委員会設置議案より、教団の各委員会組織と財政のあり方の見直しを含め、教会・教区・教団における伝道力の命と力を回復し、伝道力を高める体制を整えることを検討することが本委員会の目的であること

を確認した。

続いて石橋委員長が、教団の伝道力の命と力の回復のために、教団の教

勢低下の状況分析、伝道推進基本方策提案（祈禱運動、信徒運動、献金運動）、機構改正、財政検討案（宣教委員会改組、伝道戦略検討、伝道協力推進など）について発題した。

この発題に対して、教勢の低下など統計的な面から議論がなされていることに対する異議や、宣教委員会改組案については違和感があるといった意見が出された。

その後、各教区の伝道の状況や課題についての報告を受け、さらに、教

団の現状と課題について協議した。

協議においては、これまで教団でなされてきた機構改正や財政検討等の議論を積み重ねることが大切である、教団が推進してきた伝道の諸方策との関わりについての検討が必要であるといった意

見が出された。今後の予定としては、4月6日に第2回委員会を開催し、6月5日に教区議長会議と第3回委員会を開催すること、7月の常議員会において本委員会からの報告と提案をすることとした。

（雲然俊美報）

▼教育委員会▲

「応援セツト」選定経緯を明確に記録

40総会期第1回目の教育委員会が、2月6日から7日にかけて教団会議室にて行われた。委員の構成は、具志堅委員長、望月麻生書記、荒井偉作、箕伸子、ジョン・マッカーリー、野口幸生、横山ゆずり。

委員では、今総会期の委員会組織について諮った後、「教会学校応援セツト」への応募に対する審査がなされ、贈呈する教会を決定した（大和、

旭東、京都・賀茂。その際、教会学校の活動は教会の経常会計の大小では計りきれない部分があること、応募の理由や教会学校の事情を深く汲み取るだけでなく、選定の経緯なども明確に記録していくことが確認された。

また、2017年9月に開催予定の教区青年担当会、2018年1月に開催予定の教区教育担当会について、日程と場所の候補が挙げられ

た。特に教区青年担当会については、出席者を担当者だけでなく幅広い枠で捉えたいという意見が交わされ、今後の検討課題とした。

2016年度のキリスト教教育主事認定試験についての報告がなされ、今年度は志願者がいないことが確認された。

2017年度は宗教改革500周年に合わせて幾つかの特別なプログラムが企画されている。8

月に軽井沢で行われる教会中高生大会、7月後半から8月前半に行われる日独ユースミッション、そして台湾基督長老教会との青年交流プログラムについてもそれぞれ報告がなされた。

教育委員会はその他にも「教師の友」の年間プログラム作成や全国教会幼稚園連絡会など、多岐にわたる実務委員会である。委員同士が互いの働きを助け合い、それぞれ

が主の御用に誠実に向き合っていくことが閉会祈

祷の中で祈られた。（望月麻生報）

が主の御用に誠実に向き合っていくことが閉会祈

祷の中で祈られた。（望月麻生報）

が主の御用に誠実に向き合っていくことが閉会祈

祷の中で祈られた。（望月麻生報）

祷の中で祈られた。（望月麻生報）

祷の中で祈られた。（望月麻生報）

祷の中で祈られた。（望月麻生報）

祷の中で祈られた。（望月麻生報）

祷の中で祈られた。（望月麻生報）

祷の中で祈られた。（望月麻生報）

祷の中で祈られた。（望月麻生報）



左から、横山、望月、野口、具志堅、箕、マッカーリー

訃告

武市有信氏（隠退教師）

16年4月30日逝去、76歳。大阪府生まれ。67年同志社大学大学院卒業。同年より今治、東灘、舞鶴青葉教会を経て04年隠退。遺族は息・武市壮図さん。

小関せい氏（無任所教師）

16年12月12日逝去、93歳。兵庫県生まれ。88年受允、91年受按。88年より夜久野、西が丘、近江金田教会を牧会し12年隠退。遺族は娘・山内直美さん。

山形県生まれ。62年東京聖書学校卒業。63年より米沢興譲、東成教会を牧会。遺族は甥・小関恭弘さん。

佐伯昌祥氏（隠退教師）

17年2月6日逝去、89歳。山形県生まれ。54年日本基督教神学専門学校卒業。56年より東村山教会を牧会し88年隠退。遺族は息・川合牧人さん。

川合喜四郎氏（隠退教師）

17年2月6日逝去、89歳。山形県生まれ。54年日本基督教神学専門学校卒業。56年より東村山教会を牧会し88年隠退。遺族は息・川合牧人さん。

お詫び・訂正

新報4855号、3面「常設委員会等委員選考結果」6段目、教育委員会・箕伸子「茨城東」を「茨木東」に、4面「議案42号の取り扱いについて」4段目2行目「教職養成制度検討委員会」を「教師養成制度検討委員会」に、お詫びして訂正いたします。

事務局報

教会所在地変更



後列左から、黒田、岸、中島、秋山、佐久間、横山、梅崎、東野、小西、久世、小笠原、愛澤、遠藤、雲然、石橋、佐々木、望月
前列左から、

鳴島兄弟 千776-0005 吉

野川市鳴島町喜来18

4-11



上：2016 年クリスマス礼拝
下：川俣教会、筆者（妻のぞみさんと）

川俣教会は福島県伊達郡川俣町にあります。福島市から南に20km程の山間の町です。人口は現在1万3660人です。町では唯一のキリスト教会で、今年創立110周年です。

2011年の東日本大震災で町の公共施設等に大きな被害が出ました。町役場は解体されましたが、昨年11月に新庁舎が完成しました。教会では、礼拝堂、牧師館、墓地の道路に被害が生

じた。続く福島第一原発の爆発により、放射能汚染を受けました。川俣町は原発から40kmの所にありますが、雨と雪の影響で、町に隣接している飯館村と、川俣町の山木屋地区は、計画的避難区域になりました。尚、山木屋地区は、今年3月末に避難指示が解除されます。

大きな余震により、教会の被害は益々大きくなりました。3か所の工事を同時に考えることはとても混乱することでした。しかし教団や教区、そして多くの皆様の支援や援助、助言をいただき、2012年度に墓地道路復旧工事、牧師館建替工事、礼拝堂改修工事を次々行うことが出来ました。

9月に男性の洗礼式を行いました。既に彼の母親と娘さんが教会員でしたが、2人の祈りがあり、彼も教会に出席するようになったのです。私は2012年度から、同じ福島地区の飯坂教会の代務をさせていただいており、昨年12月に飯坂教会で洗礼式が行われました。私が代務する前から求道していた青年です。受洗した本人たちの晴れやかな表情と共に、それぞれの教会の人々が洗礼式を心から喜んでいて、これからも伝道・牧会に励んで行きたいと思いました。

40総会期第1回年金局理事会在1月20日教団会議室で開催され、教区代表理事、監事、総幹事事務取扱、東京教区支区代表、支える運動推進委員会委員長代理ら総勢27名が出席した。

今総会期には関東、大阪、西中国、常議員会推薦の4人の理事の交代があった。まず招集者数田安晴理事が年金局理事長に推薦され、満場一致で承認された。また、木下宣世（東京）、川原正言（西東京）、中林克彦（神奈川）、中川義幸（常議員会）各理事が常任理事に推薦され、理事長、道家紀一総幹事事務取扱と6名で常任理事会を構成することが提案され、承認された。

教団年金は教会と信徒の助け合いである。また教会同士の助け合いでもあり、大教会が小教会を財政的に助け合う制度となっている。教区理事・支区代表は、教区総会では勿論、信徒会、教師オリエンテーション、財務研修会など機会ある毎に謝恩日献金をお願いして、全教会で全隠退教師の生涯を支える気運を改めて盛り上げることで一致した。

1月8日、教会学校の説教のために、礼拝堂の講壇の椅子に座っていたら、小学科1年生の清水まのちゃんが、わたしの所に来て、「クリスマスどうもありがとう」と言ってきた。

クリスマスにまのちゃんから「ありがとう」と言われることが、何かしたかなーと考えたが思い当たらない。

その日、小学科の礼拝が終わって、サツと引き上げた。第1礼拝に続く主礼拝の時、玄関の所で母親とまのちゃんがわたしを待っていて、洗礼を受けた

1ヶ月が過ぎた2月19日に母親と一緒にまのちゃんと面接をした。まのちゃんは、照れて何も話さない。たまりかねて、「この子は、もうイエス様を信じたから、クリスマスプレゼントは、もつからない」

クリスマスプレゼントは、もつからない

1ヶ月が過ぎた2月19日に母親と一緒にまのちゃんと面接をした。まのちゃんは、照れて何も話さない。たまりかねて、「この子は、もうイエス様を信じたから、クリスマスプレゼントは、もつからない」

（教団総会議長 石橋秀雄）

伝道報告

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道の
TOMOSHIBI ともしび

この地にある教会としての歩み

東北教区・川俣教会牧師 鈴木 稔久

表土を削り取って碎石や土を敷いたりします。植木等も短くしました。町中で除染を実施したことにより、放射線量が大幅下がりました。除染期間中、除染の仕事をしている秋田県出身のクリスチャン男性2名が礼拝に出席され感謝でした。

2016年度は10月に久しぶりにミニバザーを行いました。避難区域になった飯館村から東京に避難した教会員の女性が、向こうで製作した手芸品等を沢山送って下さり、バザー等で使ってもらえたらと手紙に記されていたことがきっかけでした。こちらの教会員も品物を持ち寄り、思いがけずバザーが実現したのです。

11月には、2名の幼児祝福式を行いました。

40総会期第1回年金局理事会在1月20日教団会議室で開催され、教区代表理事、監事、総幹事事務取扱、東京教区支区代表、支える運動推進委員会委員長代理ら総勢27名が出席した。

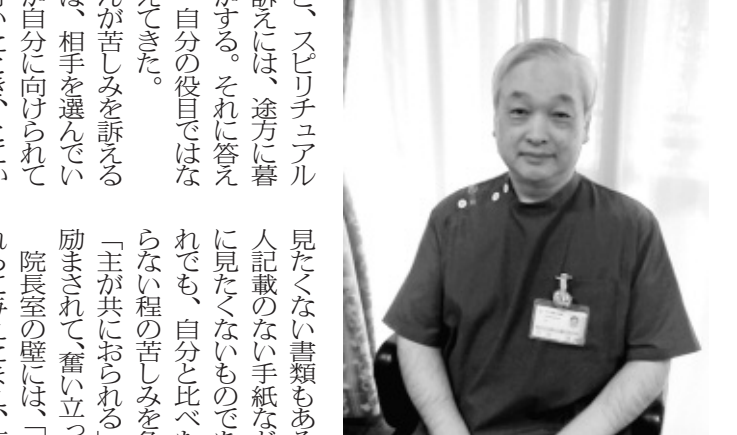
今総会期には関東、大阪、西中国、常議員会推薦の4人の理事の交代があった。まず招集者数田安晴理事が年金局理事長に推薦され、満場一致で承認された。また、木下宣世（東京）、川原正言（西東京）、中林克彦（神奈川）、中川義幸（常議員会）各理事が常任理事に推薦され、理事長、道家紀一総幹事事務取扱と6名で常任理事会を構成することが提案され、承認された。

外科医師の丹羽さんは、がんの患者さんを診る務めに「精神を尽くし、思いを尽くし」て臨んでいる。診断・治療と同時に、患者さんと家族を安心させるためには、きちんとした説明が前提となる。

決して気休めではなく、決して嘘ではなく、言葉を選ぶながらも患者さんの希望に沿った形で説明をする。がん告知はもとより、時には再発や、積極治療が困難になったなどの悪い話をする必要がある。

そのとき「なぜ」と問われても、答えようがない。症状には医学で対処するし、痛みは最も長い歴史のある一つである。先輩たちの努力と、住民の支持のおかげである。ただ、院長として勤めていると、

窮地に陥ったときの支え



横手教会員。秋田県横手市・市立横手病院長。病院設立1889年。

見たくない書類もある。差出人記載のない手紙など、本当に見たくないものである。それでも、自分と比べものにならない程の苦しみを負われた「主が共におられる」ことに励まされて、奮い立っている。

院長室の壁には、「神よ、われらに与えたまえ、変え得ぬことを受け入れる平静さを変えろ。そしてその二つを見分ける英知を」との、ニパーの平静を求める祈りを掲げている。窮地に陥ったとき、人は何を支えることができるのか。主に立ち返ることのできる「強み」を実感させられている。